大阪府かしわら市
まちの魅力発信マガジン
¥0 TAKE FREE

広報かしわら特集号 2018年3月

Kashiwara

鉄道と共に
歴史を刻む
かしわら

鉄道のある風景
かしわら

JR関西本線と近鉄大阪線が立体交差するポイントに２本の列車が同時に滑り込んできました。柏原を走る鉄道は、豊かな自然と人々の営む生活の風景に見事に溶け込んでいます。三和化学工業（株）本社工場ビルの屋上から撮影。

柏原市内には鉄道の駅が10駅あるのをご存知ですか？

ＪＲ関西本線３駅、近鉄大阪線５駅、近鉄道明寺線２駅。人口７万余りの自治体で鉄道の駅が10駅もあるのは全国的にもそう多くはありません。

イギリスが発祥の鉄道は、多くの貨物と人を運ぶ手段として、馬車など他の輸送手段と比べて効率性が優れるため、19世紀初頭には世界各地で急速に広がりました。日本においては明治時代に各地で鉄道敷設が始まり、本市では、湊町（現在のＪＲ難波）～柏原間が開業したのが最初で、以降、昭和初期にかけて整備が進み、駅数も次第に増え、現在に至ります。この間、大阪市内と奈良や南河内方面を結ぶ拠点として市の発展を支えてきました。

蒸気機関車が走る時代から電気鉄道の時代への変遷、駅前再開発の実施などによる町の風景の移り変わりを、駅周辺に暮らす人々や商店などはどのように見てきたのでしょう。本誌では鉄道の歴史と共に鉄道の運行に関わってきた人々や周辺地域で暮らす人々の生活にスポットを当てました。

また、鉄道のある風景は地域資源のひとつとして、他市の方々からも注目されています。奈良県との府県境に位置する柏原市。市域の３分の２を山が占め、中央部を大和川が流れるロケーション。緑の山々と美しい渓谷、豊かな川の流れなど多彩な自然環境の中を走る鉄道は魅力的で、写真に「映は

鉄道のある風景
かしわら

CONTENTS

4 かしわらを走る２大鉄道

ＪＲ関西本線

近畿日本鉄道【大阪線・道明寺線】

8 駅前の人びと

10 緻密で奥深い 鉄道模型の世界

12 鉄道写真の魅力と柏原のおすすめ撮影スポット

14 近鉄電車をいっぱい見るなら!! 大和川児童遊園

15 1日駅長募集

柏原市にある全10駅

MEMO

柏原駅は、JR と近鉄の共同使用駅です（駅の管轄は JR）。ここでは２社の列車がホームを挟んで仲良く並んで停車している光景が見られます。JR と私鉄が同一ホーム上で乗り換えができるのは全国的にも珍しいそうです。

える」撮影スポットを目指し多くの鉄道ファンが集います。今回は鉄道写真のおすすめスポットを大公開します。

平成30年、柏原市は市制60周年を迎えます。この記念すべき節目の年に、柏原市の魅力を再発見し、本誌が「住みたいまち、住み続けたいまち」実現の一助となることを願ってやみません。

それでは、「広報かしわら特別列車」出発進行！

かしわらを走る２大鉄道

JR 関西本線

都心と柏原の玄関口を結ぶ基幹路線

ＪＲ関西本線は、名古屋駅から亀山駅（三重県）、奈良駅を経て、ＪＲ難波駅に至る鉄道路線です。その始まりは、明治22年、大阪鉄道株式会社による湊町（現在の難波）～柏原間の開通でした。当時の停車場は、湊町、天王寺、平野、八尾、柏原の５つ。柏原駅は、大阪府内でいち早くできた路線の終着駅として栄え、旅客の乗り降り、貨物の出し入れで非常ににぎわいました。また、都心と市域を結ぶことで近代化の波を広めるのに画期的な役割を果たしました。

その後、関西本線は大阪鉄道、関西鉄道、日本国有鉄道（国鉄）、ＪＲへと経営母体を変えながら区間を拡大し、列車を進化させてきました。同路線の電化が完成したのは昭和48年と「電車」の歴史はまだ浅く、その直前まで蒸気機関車が走っていたことは、懐かしい風景として記憶にある方も多いことでしょう。

現在、関西本線で本市内の駅は３駅。市の主要駅・柏原駅から天王寺駅までは約15分と、アクセスの利便性でも大きな向上を果たした同路線の歴史や特徴をご紹介します。

昭和60年、請願駅（せいがんえき）（地元の要望により設置する駅）として開業しました。

高井田
たかいだ　Takaida

河内堅上
かわちかたかみ　Kawachi-Katakami

至奈良 約30分

開業当時のまま残る駅舎

明治44年、旧国鉄関西本線の王寺～柏原間に河内堅上駅の前身である「青谷信号所」が開設。その後、昭和２年に昇格する形で河内堅上駅として開業しました。開通当時のまま残る木造の駅舎は、風情があり、鉄道ファンの撮影スポットにもなっています。

亀の瀬トンネル

三郷町と本市の境界に、「亀の瀬」があります。昭和６年から７年にかけて大規模な地滑りが発生し、旧国鉄関西本線亀の瀬トンネルが崩壊しました。完全に埋没したと思われていましたが、平成21年、80年ぶりに亀の瀬トンネルの一部がほぼ原形をとどめた状態で発見され、大きな話題となりました。

コレ知っとれいん！？

幻の駅があった！

崩落したトンネルを回避して、峠を歩いて越える人々。地滑り発生後、昭和７年２月から線路の切替工事が完了するまでの約11カ月間は、トンネルの両側に仮駅として「亀の瀬西口駅」「亀の瀬東口駅」が設置され、両駅間は徒歩区間になりました。

再開発前の柏原駅西口ロータリー

JR柏原駅前再開発

平成19年、柏原駅を橋上駅舎に改築。あわせて西口側の駅前再開発を行い、「アゼリア柏原」が完成しました。西口と東口がバリアフリー化された自由通路で結ばれたことで、それまで駅東西を往来するためには約250 m離れた踏切の利用を余儀なくされていたまちが一体化され、通行時の安全性と利便性が向上しました。

現在の西口ロータリー

あの人に聞きたい！ 国鉄時代の関西本線の運転士さん

お話を聞いた人
三重県亀山市在住
元国鉄運転士
坂（さか） 雪義（ゆきよし）さん

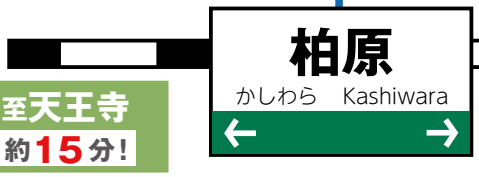
子どものころに見た貨物列車や乗務員の制服姿に憧れて、16歳で旧国鉄に就職。終戦直後で、引揚者の帰国や労働基準法の制定など労働環境は激動の時代でした。

【職歴】昭和21年4月～61年3月まで奈良機関区を中心に庫内手、機関助士、気動車運転士、電車運転士など
【携わった蒸気機関車の形式】C11、8620、C51、C57、C58、D50、D51

●柏原市沿線の印象
駅周辺以外は家が少なく、大和川沿いの景色がきれいで、ぶどう畑が多かったことを覚えています。運転では、勾配が緩いため、ボイラーの圧力と水位の維持にあまり苦労しませんでした。運行本数が少なかった当時、車内はいつもぎゅうぎゅう詰めの状態でした。

●運転士の思い出
蒸気機関車の運転には、運転士に加え、石炭をくべる機関助士が必要でした。石炭を焚くのは大変で、特にトンネルの中は煙が充満しているため、姿勢を低くしてタオルで口を塞ぎながらの作業。全ての毛穴から汗が噴き出すほど熱かった。それでも、自分で作り出した動力で客車や貨車を牽引するのは楽しかったです。「乗客の貴重な体を、必ず安全に、きっちりと運ぶ」という気持ちで仕事に取り組み、終われば「今日も一日無事で良かった。明日も頑張ろう」と思う日々でした。

柏原駅を通過する蒸気機関車（昭和47年）



JR西日本企業CM（平成28年秋）の1シーンに柏原駅前の風景が登場！

コレ知っとれいん！？

平成28年秋放送のCMは、ウェブ上で以下のURLから視聴できます。
※最新のCMではありません。

URL　https://m.youtube.com/watch?v=9nl930jzfmg

●広報部の三上さんに聞いてみました

JR西日本
広報部　三上 容平さん

CMのシーンでは、鉄道と地域の皆さまが身近に寄り添っている姿を描きたかったんです。近畿圏の各地を探して、踏切の奥に商店街が広がっているところがちょうどイメージに合っていたため、この場所を撮影させていただきました。放映後は、ご覧いただいた皆さまからの反響がすごく、柏原駅付近のシーンに対しても、「地元が映っていてとてもうれしい」「柏原駅の踏切が有名になって、写真を撮影に来ている人が多数います」といった声を数多くいただきました。

CMは「お客様に対して安心と心地よさをお届けしたいという、社員一人ひとりや会社の思い」を表現できるように苦心したのですが、皆さまからの声を聞くと「少しはお伝えすることができたのかな」と思うことができました。この場を借りてお礼申し上げます。今後も、JR西日本をよろしくお願いします。

かしわらを走る２大鉄道

近畿日本鉄道
【大阪線・道明寺線】

近鉄路線で最も古い路線

近畿日本鉄道（近鉄）といえば知らない人はいないと思いますが、その歴史は古く、いくつもの鉄道会社が合併し現在の姿になったことをご存知でしょうか。今回、現存する近鉄路線の中で、最も古い区間である近鉄道明寺線について触れたいと思います。

明治22年、南河内の主要な町村を結ぶ路線である大阪鉄道（現在のＪＲ）はすでに運行していましたが、南河内の人々が大阪市内に行くためには徒歩や人力車で柏原村まで行き鉄道に乗らなければなりませんでした。この不便を解消するため、明治29年３月、有志51名が発起人となり、河陽鉄道株式会社を設立し、明治31年３月から柏原～古市間で運輸業を開始しました。

しかし、初年度から営業不振に直面し、翌年５月には新会社である河南鉄道に経営を譲渡しました。その後も合併などにより大阪鉄道、関西急行鉄道、近畿日本鉄道と改称され現在に至ります。この鉄道の開通を礎として、当時の柏原村などは南河内地方の玄関口として繁栄しました。

急行停車 !!
大阪上本町まで約 20 分

至大和八木

安　堂
Ando
大阪線 D17

河内国分
Kawachi-Kokubu
大阪線 D18

大阪教育大前
Osakakyoikudaimae
大阪線 D19

～河内国分駅再開発～

河内国分駅再開発事業の目的は幹線道路の交差点整備、浸水対策としての公共下水道の整備、駅前交通広場の整備、商業基盤の整備などでした。昭和 46 年度から調査計画に着手し、昭和 48 年度に公共団体施行の再開発事業として国庫補助の採択を受けました。また、この事業に合わせて河内国分駅の東西駅舎の統合を図り、利便性と安全性を高めるために橋上駅舎化工事が行われました。当時は全国的にもまだ駅前再開発の計画が少ない時代でしたが多くの方の協力があり事業は完成し、昭和 57 年 9 月 30 日に再開発事業竣工式典が行われました。

再開発前の河内国分駅

現在の河内国分駅

コレ知っとれいん！？

あなたも歴史の証人 ～ Feel the history ～

全長約 217m におよぶ近鉄道明寺線の大和川橋梁の側面には、製造会社の銘板が取り付けられています。その製造会社はイギリスのダッドリーにあった「コクレーン社」で、河陽鉄道用に製作したものです。河陽鉄道は開業後約 1 年で河南鉄道に改称されているので、開業当時の鉄橋が現在も使用され続けていることになります。

柏原南口駅は大正 13 年（1924 年）6 月に開業しました。ホームの上屋を支える柱にはレールが使用され、側面に「G.H.H1921」「G.H.H1922」の文字があり、ドイツの「グーテ・ホフヌングス・ヒュッテ社（Gutehoffnungshütte）」が大正 10 年（1921 年）に作ったことを示しています。

至道明寺　柏原駅～道明寺駅間は約 2.2 ㎞で、乗車時間は約 4 分です。

柏原南口 Kashiwara-minamiguchi　道明寺線 N16

柏　原 Kashiwara　道明寺線 N17

至大阪上本町　駅を識別しやすくするために駅番号が付けられています。

法善寺 Hozenji　大阪線 D15

堅　下 Katashimo　大阪線 D16

～鉄道の使命とは～

保線機械作業の様子（通常は夜間作業）

「鉄道の使命は、お客様を目的地まで安全に正確に快適にお運びすることである」と近畿日本鉄道機械軌道区 OB で本市在住の川岸明美さんは話してくれました。川岸さんは昭和 41 年から近畿日本鉄道に勤務し、保線機械による線路の保守および検査業務などを担当され、鉄道の安全に尽力されてきました。川岸さんの入社前は、線路の保守を人力で行っていました。ゆがみや凹凸が徐々に出てくるので、保守が必要となってきます。人力での作業は 10 m の線路を保守するのに 8 人の作業員が必要でした。しかし、時代の変化と共に機械化が進み、現在では 1km の保守を 4 人で行うことができるようになりました。「人力での作業はベテランと新人でどうしても技術力に差がありましたが、機械化が進んだおかげで作業の効率化、正確さが格段に進歩しました。保守点検カ所は多くありますが、自分たちで保守し乗り心地が良くなった時に仕事のやりがいを感じます」と笑顔で話してくれました。なお、長年の勤務が鉄道業務功労として認められ、川岸さんは平成 29 年 11 月 3 日に瑞宝単光章を受賞されました。

元近畿日本鉄道軌道区員
川岸 明美さん

駅前の人びと

鉄道の発展と変わりゆく町並みについて、古くから本市で商店を営まれる方々にお話を聞きました。

2代目の西村晴夫さんと奥さんの君枝さん

子どものころ、踏切番のおっちゃんによく遊んでもらった。

株式会社釘忠商店（清州）

昭和21年創業の（株）釘忠商店は、電車の中からも見える大きな看板が特徴的で、平成28年に放送されたJR西日本の企業CMの一場面に登場するなど、長年、JR柏原駅前の風景としても親しまれてきたお店です。

2代目の西村晴夫さんは、本市出身。柏原小・中学校を卒業し、高校時代は千葉県へ。大阪に戻って夜間大学を卒業した後、大阪市内の金物屋で3年間修業し、父親が創業した同店を継ぎました。子どものころから今日まで晴夫さんが見てきた鉄道の景色の中には、現在では見られない蒸気機関車やディーゼル車があったといいます。

「蒸気機関車は煙がすごかった。ここで貨物の入れ替えもしていたし、地響きというか、通るたびに家がガタガタ揺れた。遠方から泊まりにきた知人がびっくりしていた」

懐かしそうに当時の情景を辿る晴夫さんは、ある笛の音を思い出したようでした。

「踏切りを手でおろしてたんは知ってるか？『踏切番』がいて、列車が来たらピーッと笛を吹いて、手動でハンドルをぐるぐる回して遮断機をおろしていた。子どものころ、そのおっちゃんによく遊んでもらったのを覚えている」

当時の子どもたちは、踏切のわきにある小屋に常駐する踏切番に興味津々だったことがうかがえました。

人通りについては、当時と比べて「減っている」。以前は駅前や商店街は大変にぎわっていたそうですが、銀行の移転や量販店ができた影響などにより、次第に活気が薄れてきたといいます。

（株）釘忠商店は、藤井寺市に長男が経営する支店を構えています。「売上はあっちのほうがずいぶんいいわ（笑）」と晴夫さん。とはいえ、「ここを閉めるわけにはいかへん」と朗らかに話しました。

「父親が残してくれたお店。お客さんの後ろ姿を拝んで幸せを願う気持ちでやっていると、有難いことに通い続けてくれる人もいる。それにこんなにええまちはないと思う。散歩すれば大坂夏の陣があった片山・玉手山が見える。二上山も見えて、その先には伊勢神宮がある。大和川と石川もあって。こんなにええ、歴史ある町はほかにないで」■

昭和30年代のオガタ通り商店街。右手にあるのが、当時の（株）釘忠商店です。

上の写真とほぼ同じアングルで撮影。店の佇まいは当時の名残を留め、地元に愛されるまちは今も変わりません。

谷野光司さん、３代目の浩之さんとご家族

５時６分発の一番列車で近鉄河内国分駅から三重県まで通っていた。

谷野酒米穀店（国分本町）

昭和６年生まれの谷野光司さんが開店した谷野酒米穀店は、３代にわたり国分周辺のまちの移り変わりを見守ってきたお店のひとつです。

光司さんは国分本町の農家の生まれで、国分尋常小学校を卒業。若くして父親を亡くされ、決して裕福ではなかったといいます。そんな光司さんが商店を始めたきっかけは、父親のお葬式でした。食べ物の確保が困難な中でも、「来てくださる人たちにせめて１食でも振舞いたい」と、親戚にお米30kgを借りることに。その後、お米を返すために奔走する中で三重県の農家の方に出会い、食料を求める地域の人たちのためにも食品を販売しようと思いたったそうです。

そのころ、三重県まで行く手段は鉄道しかありませんでした。「毎朝、近鉄河内国分駅から５時６分発の一番列車に乗っていた」という鮮明な記憶は、当時の苦労を物語っているようにも聞こえました。早朝の列車は、行商とサラリーマンでいつも混雑していたそうです。「伊勢中川駅で乗り換えるときに、窓から出入りしたこともあったわ」と光司さんは笑って振り返ります。行きは朝採りのぶどうを担いで松阪市の青果市場に持っていき、帰りは山ほど食品を柏原まで運ぶ日々でした。

「30kg以上詰めた紙袋を風呂敷で２つ包んで背負って、両手にも２つ抱えていた」

仕入れた食品は、近隣地域だけでなく東大阪市にも売りに行きました。「当時の苦労を想ったら胸がいっぱいになる。今でも、食べ物を粗末にしてはいけないと思っている」と光司さんは言います。

高度成長期に入ると、自動車が著しく発達し、行商が電車で野菜や鮮魚などを運ぶ姿は見られなくなりました。各地で駅舎の新設、路線拡大が進む中、昭和57年には河内国分駅前も再開発されました。まちの大きな変化を見届けた光司さんは、「商店街が商業ビルに様変わりして淋しい思いもあったけれど、歳を取った今は、交通も道路も良くなって、まちが便利になった印象がある。便利になって人が増え、消費も増えた」と話しました。

現在、谷野酒米穀店は孫の浩之さんが後を継いでいます。運送手段が変わった今でも、各ご家庭への「御用聞き」は昔のまま。「お客様を大事に考えな、お商売は成り立たない」という光司さんの教えを胸に、地域に根付いた商売が受け継がれています。■

昭和30年代。旧河内国分駅から柏原産のぶどうが出荷される様子です。

旧河内国分駅前の風景。国道・府道の整備、駅前広場や駅上駅舎の設置、スーパーの開店など、再開発により車と人の流れが大きく変わりました。

教えてくれた人

森本 宏さん

緻密で奥深い
鉄道模型の世界

150分の1のスケールで昭和40年代の町並みを再現

鉄道の世界をミニチュアの列車や情景で表現する「鉄道模型」。コレクションや模型製作など楽しみ方は幅広く、世界中に多くのファンがいます。

この鉄道模型に注目し、商店街の活性化に使えないかと考えていたオガタ通り商店街の皆さん。話し合いを進める中で、商店街にお店を構える森本宏さんが趣味で鉄道模型を製作されていることが分かり、見学に行かれたところ、その精巧さと素晴らしさに皆さんびっくりされたそうです。そのお話をお聞きし、さっそく森本さんを訪ねました。

部屋に入って目にしたのは、120㎝×250㎝ほどの大きさの板の上いっぱいに広がる鉄道模型。蒸気機関車が走っていた昭和40年代の初夏、時間は日中という設定で作られた森本さんオリジナルの町並みには、列車やレールはもちろん、家や商店、田畑や山々などがあり、本物さながら。人形や車も配置され、細部までこだわった生活感のある風景に、つい時間を忘れて見入ってしまいます。

森本さんがこの鉄道模型の

製作に着手したのは４年ほど前。「小さいころに兄が買ってきたトロッコ列車の模型を木のレールに走らせて遊んでいました。そのころから鉄道模型が好きで、いつかＮゲージで模型を作ってみたいと思っていました。この模型では、最初にレールの配置を決めるレイアウトに一番苦労しました。ああでもない、こうでもないと考えながらレールの配置を決め、その後は奥側から作っていきました。スムーズに走らせるために、線路の角度を調節したり、雰囲気を出すためにバラスト（線路の周りに敷く砂）は２色を混ぜたりもしています。時代背景は資料を参考に、色のバランスなども考えて、仕事の合間に少しずつ作ってきました」

現在、こちらの鉄道模型は公開されていませんが、オガタ通り商店街の皆さんは活性化の取り組みの一つとして新たな模型製作なども考えているとのことです。

▲扇形庫に並ぶ蒸気機関車と車両の方向を変えるターンテーブル

▲駅に停車する電車と蒸気機関車

▲駅には灯がともり、列車を待つ人、その向こうには近鉄の２代目ビスタカーが見えます。

▼神社にはお宮参りする家族。喜びあふれる声が今にも聞こえてきそうです。

▲トンネルから出てくる列車。山の木々や岩肌、田畑の様子など細部まで丁寧に再現されています。

▲このスイッチで、列車を操作したり、レールの進行方向を切り替えたりします。

鉄道写真家に教わる

鉄道写真の魅力と柏原のおすすめ撮影スポット

走行している列車の一瞬をとらえる鉄道写真。列車そのものを撮る列車写真や、四季折々の風景の中にある鉄道を撮る鉄道風景写真、列車のスピード感を表現する流し撮りなどさまざまな種類があり、幅広い年代の方に楽しまれています。

今回、鉄道作家であり、鉄道写真家としても活躍されている寺本光照さんに、初めての方にも撮りやすい「列車写真」と「鉄道風景写真」の基本的な撮り方と、柏原のおすすめスポットをお聞きしました。「鉄道写真を撮る」という視点で歩いてみると、きっと、見慣れた柏原の景色がちょっと違って見えるはずです。ルールとマナーを守って、あなたも鉄道写真の魅力に触れてみませんか？

教えてくれた人

鉄道作家・鉄道写真家
寺本 光照さん

八尾市生まれで、昭和52年から柏原市在住。鉄道友の会会員。高校生のころから鉄道写真を撮り始め、鉄道に関する著書も多数。主な著書に「国鉄・JR列車名大事典」「国鉄・JR関西圏近郊電車発達史」「決定版近鉄特急」など。

寺本さんからのコメント

柏原市は、自然が多く残る風光明媚（ふうこうめいび）な土地です。その中をゆくＪＲや近鉄の電車も色とりどりでバラエティーに富んでいます。山や川の美しい風景と列車を組み合わせて、列車写真や鉄道風景写真を撮りましょう。天気のいい日は時間が経つのを忘れるほど楽しくなることと思います。

列車写真の撮り方

鉄道写真の基本と言われる列車写真。走り去る列車ではなく、向かってくる列車を先頭車両から最後尾まで画面に入れるのが基本です。

列車写真を撮影するときのポイント

1. 撮りたい構図をイメージしながら、障害物が少なく、列車全体を撮れる場所を選ぶ。なるべく先頭車両に架線の柱や草木などがかからないようにする。
2. 車体の色や形式などがはっきり写るように順光で撮影する。
3. シャッタースピードに注意。列車がぶれないように、高速シャッターで撮影する。
4. ピントは、AF（オートフォーカス）の場合、列車の先頭が来るであろう位置にフォーカスポイントを置いておく。
   MF（マニュアルフォーカス）の場合、予め列車の先頭が来る位置にピントを合わせておく。

寺本光照さん撮影

列車写真は、一瞬の勝負！構図を予め考え、列車がどの位置に来たらシャッターを押すか決めて準備しておきましょう。

鉄道風景写真の撮り方

四季折々の美しい風景と鉄道を一緒に撮影する鉄道風景写真。風景と鉄道の２つの要素が入るため、バランスのとれた構図づくりが重要です。

鉄道風景写真を撮影するときのポイント

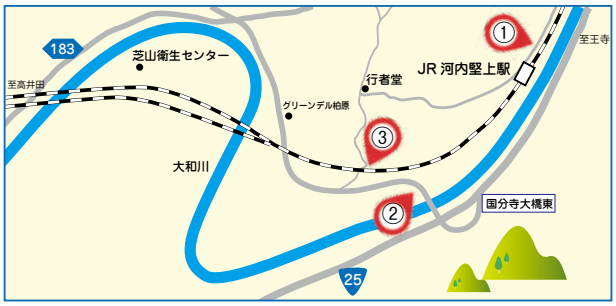
1. 鉄道風景写真を撮るときには、季節感のある被写体を入れるようにし、列車と風景のどちらを主題にするのか決める。
2. 全体を風景写真として考え、その中に走る列車を取り込むように写すときれいに撮れます。

寺本光照さん撮影

河内堅上駅周辺
かわちかたかみえきしゅうへん

柏原市内のおすすめ撮影スポット

豊かな自然と電車を１枚に収めることのできるスポットが点在しています。



※いずれの場所も駐車場などはありません。安全に十分注意し、周囲の方の迷惑にならないようにして撮影してください。

▲①カーブを曲がってきた電車を直線で撮影することができます。

▲②天気の良い日や春から秋にかけては、山や田畑、青空などの自然と電車とのコントラストが魅力です。

◀③線路上に架かる跨線橋（こせんきょう）のフェンス越しに撮影。電車の屋根も見え、いつもと違うアングルから撮れます。
※カメラや部品などが落下しないように注意してください。

大和川橋梁周辺
やまとがわきょうりょうしゅうへん

柏原市内のおすすめ撮影スポット

近鉄電車を撮るならココ！初心者さんでも簡単に多彩なラインアップの車両を撮れます！

▶順光で撮影するなら午後から。背景に二上山を入れたり、大和川を大きく入れたり、右岸側・左岸側からなどさまざまなアングルが可能です。

鉄道を撮影する時のルールとマナー

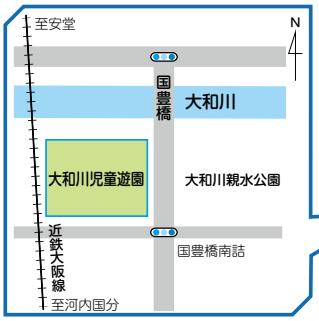
安全に気を付けて、鉄道・列車の撮影を楽しむために、守るべき主なポイントをまとめました。

1、線路内や鉄道敷地には絶対に立ち入らない。
2、駅や車両の備品などに触らない。
3、踏切や線路に近づきすぎない。
4、フラッシュは使用しない。
5、乗務員や駅係員、乗客などに迷惑をかけるようなことは絶対にしない。
6、私有地や立ち入り禁止の場所に入らない。
7、出したごみは持ち帰る。迷惑駐車も厳禁です。
8、撮影地などではお互いに譲り合う。

これ以外にも、法律やマナーを守り、安全に十分気を付けて、鉄道写真を楽しみましょう。

近鉄大阪線の大和川橋梁（きょうりょう）のたもとにある大和川児童遊園は、遊びながら電車を見られる絶好の電車スポット！

鉄橋ならではのガタンゴトンという音をさせて、左右からさまざまな種類の電車が目の前を走る様子は、子どもだけでなく大人も楽しめますよ！



お子さんと楽しめる !!
近鉄電車をいっぱい見るならココ！
大和川児童遊園

車両正面写真提供：近畿日本鉄道株式会社

こんな電車を見られる！

50000 系 観光特急「しまかぜ」

23000 系 伊勢志摩ライナー

21020 系アーバンライナー next（ネクスト）が走ることもあります！

21000 系 アーバンライナー plus（プラス）

こちらが 22600 系 ACE

22000 系 ACE と 22600 系 ACE の連結

12200 系 新スナックカー

国内で鮮魚列車を運転しているのは近鉄だけ！

2680 系 鮮魚列車

5200 系 一般車両（急行用クロスシート車）

よく見かける一般車両も形式によって、デザインに違いが！

2610 系 一般車両

電車のことをもっと知りたいときは？

鉄道や電車のことをもっと詳しく知りたい！そんな時はぜひ図書館へ。柏原・国分両図書館では、児童書から一般書まで、電車の図鑑や鉄道の歴史の本をはじめ、絵本や小説、ガイドブックなどさまざまなジャンルがそろっています。

「乗る」・「見る」楽しみに加えて「読む」楽しみも！

コラボ企画開催

図書展示「電車・鉄道の本」

柏原図書館　３月２日（金）～５月６日（日）
国分図書館　３月 16 日（金）～５月７日（月）

柏原市制60周年
近鉄 柏原駅～古市駅間開業120周年 記念事業

コラボ企画

明治31年（1898年）、柏原駅～道明寺駅（現・近鉄道明寺線）と道明寺駅～古市駅（現・近鉄南大阪線）が開業して今年で120年になります。近鉄がこの記念すべき節目の年に柏原～古市間開業120周年記念事業を実施するのに合わせ、今年市制60周年を迎える本市と共同で記念イベントを開催します！

制服を着て、駅長になって、出発式で「出発進行!!」

1日駅長募集

大　人1名
子ども1名

司会：Span!

とき　**3月24日(土)**
午前10時15分～

ところ　**柏原駅構内**

募集要項

■**内容**　制服の貸与、1日駅長任命式、記念列車出発式など
■**対象**　市内在住の大人1名、小学1～3年生1名（全2名）
■**応募方法**　郵便はがきに次の内容を記入の上、郵送でご応募ください。①鉄道に対する熱い思いやPR（100文字以内）、②郵便番号、③住所、④氏名、⑤年齢、⑥連絡先電話番号、小学生は⑦学校名、⑧学年
■**応募先**　〒582-8555 柏原市安堂町1-55
柏原市役所 秘書広報課「1日駅長」係
■**申込み締切**　3月9日（金）必着※応募多数の場合は厳正な抽選の上、当選者にのみ通知します。
■**問合せ**　秘書広報課 ☎072-972-1500
※制服のサイズは大人170㎝、子ども130㎝程度です。

イベントの内容

▶**記念列車の運行**
道明寺線開業120周年を記念して、特別なヘッドマークを施した記念列車が3月24日（土）一部時間帯に道明寺線を運行します。

▶**1日駅長の任命と出発式**
当日、1日駅長の任命式と午前10時51分柏原発道明寺行きの記念列車の出発式を行います。

▶**記念入場券・グッズの販売**
道明寺駅にて記念入場券、グッズ（キーホルダー）の販売を行います。（午前10時～正午ごろで売切次第終了します）

※出発式は一般の方も自由に参加できますが、来場者が多数の場合、入場できない可能性があります。また、JR柏原駅入場の際は、駅にて入場券（120円）をお買い求めいただき、電車に乗車される場合は切符をお買い求めください。

イベント盛りだくさん！市制60周年事業

柏原市では市制60周年を記念してさまざまな記念事業を企画しています。詳細は広報かしわら、ウェブサイトなどで順次お知らせしますのでお楽しみに！
例：市内の駅をモチーフにしたLINEスタンプの作成・市内循環バスラッピング・テレビ番組誘致（NHKのど自慢）・かしわら笑顔大使 寛平ちゃん楽（らく）書き大会など

市制60周年記念ロゴマーク

広報 Kashiwara 増刊号・特集号 バックナンバー はこちらから

2014.9 増刊号

2015.10 特集号

2016.3 特集号

2016.10 特集号

2017.3 特集号

2017.9 特集号

2015.3 増刊号

問合せ　柏原市秘書広報課 ☎ 072-972-1500　※在庫に限りがあります。

広告欄

広告掲載のお申込み・お問合せは、株式会社ホープ（☎092-716-1401）まで。

※広告および広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。また、これらの事業者および内容について市が推奨等をするものではありません。

広報 Kashiwara 特集号 2018/03

広報 Kashiwara 特集号　3月号　2018年3月1日発行
発行　柏原市 〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1番55号　☎ 072-972-1501　✉ info@city.kashiwara.lg.jp　編集　秘書広報課

Take Free